

Weekly Bulletin 2025-2026



RI会長
フランチェスコ・アレツォ



静岡東ロータリークラブ

会長/森下登志美 幹事/数崎 忍

事務局/静岡市葵区追手町2-12 静岡安藤ハザマビル5F TEL054-254-5611

例会場/ホテルアソシア静岡 例会日/毎週 木曜日 12:30~13:30

<http://www.shizuoka-east-rc.jp>



会長
森下登志美

第 3159 回例会

令和 8年 1月 29日

《司会》 野田 祐輔 君

《合唱》 静岡東ロータリー

《ソングリーダー》 古橋 剛俊 君

《ゲスト》 なし 《ビジター》 なし

《本日のお祝い》

・お誕生日

1月30日 大村 幸代 君

1月30日 大熊 健志 君

2月01日 伊藤洋一郎君

2月01日 中島 浩二 君

・結婚記念日

1月30日 大熊 健志 君

《会長挨拶要旨》

森下登志美 会長

皆さんお疲れ様です。先日 都内にて地震学の権威である京都大学名誉教授の鎌田浩毅(かまたひろき)先生のお話を聞く機会がありましたので、

皆さんにお話したいと思います。結論から申し上げますと、東海・東南海・南海地震を引き起こす南海トラフにおける連動型巨大地震は 2035 年プラスマイナス 5 年以内に必ず起こるとおっしゃっていました。一つ目の根拠として挙げられているのは周期です。歴史上、南海トラフ沿いに巨大地震と大津波が約 100 年おきに発生したことがわかっていて、そして 3 回に 1 回は東海・東南海・南海地震の三つの震源域が同時に活動する「連動型地震」で、今回はこの「連動型地震」の番にあたっている、3 回前の宝永地震は 1707 年に江戸時代に発生していて、規模は M9 クラス、すべての震源域が数十秒単位で連動したとされているそうです。前々回は 1854 年に M8.4 の安政東海地震の 32 時間後に同じく M8.4 の安政南海地震が発生、前回は 90 年後の 1944 年に昭和東南海地震、その後 2 年後に 1946 年に昭和南海地震が発生している。1946 年に 90 年を加えると 2036 年

となり、こうした複数のデータを使うと次の発生時期は 2035 年を中央値とする 2030 年から 2040 年と予測されることになるのだそうです。過去を分析すると東海・東南海・南海地震の震源域が時間をおいて割れ目が伝播する「半割れ」と呼ばれる現象が発生し、震源域の片方で M8 以上の地震が発生した後、残りの地域で連動して地震が起きることになるそうですが、過去の 3 回の例を見るとその時間差は数十秒から 2 年までバラツキがありほぼ同時といっても言い場合があるそうです。東北大学のグループでは、南海トラフ沿いで最初の巨大地震が発生した後の一週間以内に同規模の後発地震が起こる確率が平時の 99~3600 倍に高まることを明らかにしているとのこと。よって震源域の片方で巨大地震が発生したら、ただちに残りの地域で連動地震を警戒する必要があると先生はおっしゃっていました。二つ目の根拠として挙げられているのは「リバウンド隆起」です。地震の後に土地が隆起するのは能登地震でのものが記憶に新しいところですが、南海トラフで発生した過去の巨大地震について、高知県の室津港で観測された地盤の隆起量を見ると、1707 年の宝永地震では 1.8m、1854 年の安政南海地震では 1.2m、1946 年の昭和南海地震では 1.15m それぞれ隆起したそうです。1 回の地震で大きく隆起するほどエネルギーが解放され、次の地震までの時間が長くなる規則性があるため、これを利用すれば次に地震が起きる時期を予測できるとのこと、1946 年のリバウンド 1.15m から導き出すと次に南海トラフ巨大地震が起きるのは 2035 年頃と計算されるそうです。先生は 3 連動地震による被災者の数は 6 千万人、つまり日本人の二人に一人が被災し、被害額は東日本大震災の 10 倍、2200 兆円と予測されています。さらに富士山のマグマだまりの天井が東日本大震災によってヒビが入った状態になっていて、南海トラフ地震による揺れが加われば泡立ったマグマによる大噴火に至る恐れもあるそうです。こうした状況下で被害を減災する事業計画、いわゆる BCP を考えると二



つポイントがあるそうです。BCP 一つ目のポイントは巨大地震の後に起きる大規模火災、二つ目は揺れが一旦おさまったあとの「群衆なだれ」で、大規模火災については木造密集地域にある住宅、オフィス、工場に警戒しいち早く木蜜地域から逃れること、群衆なだれは揺れが一旦収束したあとの帰宅者による将棋倒しを避けるため就業場所、たとえば数日はオフィスにとどまれるよう食料を水と簡易トイレを備蓄することが大切だそうです。まず無事を伝えることが大事だが、震災直後には電話、ネット回線ともにバンクする可能性がきわめて高いため情報のう回路を用意しておくことも必要だということです。ちなみに先生は出張時に、ペンライト、ペットボトルの水、ドライフルーツを携帯しているそうです。今日はあまり明るい話題ではありませんでしたが、貴重なお話をお伺いしたのでお話をさせていただきました。

《本日のプログラム》

～委員長・リーダー 上半期業績、下半期計画発表～

1.クラブ管理運営委員会：委員長 川口尚宜君

今期の当委員会のリーダーの皆さんはすごい人達で上半期を運営してくれました。後期のクラブ運営も、スーパー軍団にお任せください。

2.親睦活動グループ：リーダー 原口翼君※川口会員代読

今期、総勢24名で活動。8月納涼例会、12月年末家族会を実施。下半期は、4月観桜会を『無庵』にて開催予定。下半期も工夫を凝らし、企画を進めます。

3.クラブ奉仕：リーダー 生形秀之君

5/7にクラブフォーラムを行います。クラブの皆様にとってより有意義なものになるよう意見を出し、ブラストが出来たらと思っています。

4.出席：リーダー 竹中正俊君

7月から12月までの平均出席率約89%、目標90%未達ですが、前半はMUが少なかったため、後半はMUを考慮すれば年間では目標の90%達成は可能。今後とも例会への出席、欠席時の事前連絡をお願いいたします。

5.スマイル：リーダー 大井竜介君※武会員代読

スマイル目標金額90万円、1/22現在81万8700円進捗率91%、大村会員ご発案のテーブル懇親会企画、鍋田会員の極めて模範的な施しをはじめ全会員様の気高いお志の賜物と感謝申し上げます。下期も引き続き、進捗率150%、200%を目指して、スマイルボードの見える化を図り、嬉しい事、辛い事、悲しい事、あった時も、心温まるスマイルをどうぞ宜しく申し上げます。

6.プログラム：リーダー 中島浩二君

上期、9/18、卓話者に日本銀行静岡支店、支店長の平田泰隆様、10/16、女優の山口いづみ様を招いての卓話を実施。下期は、3/12、静岡模型教材協同組合 理事長 青島

文化教材社 代表取締役社長 青島大輔様を招き『ホビーの街しずおか』についての卓話、4月は現在調整中として、二回の卓話の実施を予定。

7.ソング：リーダー 稲森敦子君

従来の方針を受け継ぎ、ソングの指揮をする方に一言添える形で進める。近江前リーダーの資料を受け継ぎ、今期は前期にやっていない方を中心に人選をし、事前にその方に担当するソングを決めて伝えた。この事で事前準備もでき、幹事様、ホテル様も当日バタつくことがなくなった。後期も同様の方針を受け継ぎます。

8.SAA：リーダー 大村幸代君

活気ある例会の雰囲気を作る事を目指して、1、例会五分前の予鈴、2、三か月事の席次の変更とテーブルミーティングのお願い、3、ホール外ではない会場BGM、4、出欠席の確認と無駄のない配食などを活動しました。

9.ロータリー財団：リーダー 戸塚敦雄君

8/2、2025-2026年度国際ロータリー第2620地区ロータリー財団セミナー参加。11/27、クラブフォーラム『ロータリー財団とグローバル補助金』と題して、卓話を実施6/12、理事会でロータリー財団年次寄付を目標150ドル/人ではなく11,000円として、ポリオ撲滅資金寄付を30ドルに決定。ポリオ撲滅資金寄付は10月に30ドルで実施。財団年次寄付は1月末に11,000円分の寄付を予定。

《所感》

冒頭の会長挨拶で触れられた南海トラフ大地震のお話は、私たち個々の役割を改めて考える機会となりました。そうした意識を共有しながらも、本日の発表からは、静岡東ロータリークラブならではの温かく和気あいあいとした雰囲気、そして支え合う力を強く感じました。下半期も、この結束力を地域の安心と未来につなげていけることを期待しております。

《スマイル報告》

大熊健志君（誕生日・結婚記念日・テーブルミーティングの御礼）
大村幸代君（誕生日・テーブルミーティング・会長賞の御礼）
伊藤洋一郎君（誕生日の御礼）
森下登志美君（新店舗オープンを記念して）
鍋田知佐人君（会員増強のお願い）

《出席報告》

	会員数	出席	欠席	MU
1/29	57 ()			
1/22	57 (54)	46	8	1
1/8	57 (54)	44	10	6

(会報作成：栗田英行)